

寺報は無料、不要の方は一報下さい。

第230号

龍源寺報

令和3年正月号

臨濟宗・妙心寺派	住職 松原 樹
佛母寺住職 松原 樹	正福寺住職 松原 樹
TEL	3451-1853
FAX	3451-6094

振込 00160-0-104918 東京都港区三田5丁目9-23 (郵便番号 108-0073)

Email: info@ryugenji.com URL: http://www.ryugenji.com

新年におもむ

今日、コロナ禍だけでなく地球温暖化や生態系の破壊など誰もが危惧していることだろう。そのような苦難と不安を繰り返す日々の中で、未来に希望を持って生活していきたい。不安は自分を見失いやすくする。「これが生きるということだったのか。よし、それならばもう一度」と、腰を上げ、自分のいのちの充実に励みたい。やる気のスイッチが入る時は、目標を捉えた時と危機感を持った時だと、私はつくづく思っている。試行錯誤は人間の定めなのかもしれない。

耐えることは、辛いことである。独りでどうすることもなく、不運の境涯に陥ることは、誰にでもあることである。また、逆に身の丈に合わない富に恵まれることも、かえって人生を迷わせルールを踏み外す危険性がある。じっと冬の厳しい辛苦に耐え、やがてくる春を待ちわびる。誰もが春を待つ心を抱いている。春になると花は蕾をつけ花を咲かせる。いつの日か咲く花を育てあげつつあるという努力の喜びが、不安を繰り返す日々の中での生活を支える杖になる。

去年は一回も行かれなかったが、私は、例年毎年五月に群馬県にある北軽井沢の坐禅堂に出かける。標高千メートルのそこは、まだ、五月といえども寒

い。寒いから、桜が遅れて咲く。浅間山の裾野の山林にある桜は、咲いているにもかかわらず、誰にも見られず、全く評価されない。一方、町の小学校の校門の前にある桜は、みんなに、「きれいだ、きれいだ」と、写真など撮られ、評価されている。双方の桜とも、五月のゴールデンウィーク明けの頃、二、三日のずれはできるかもしれないが、毎年、つぼみをつけ花を咲かせる。評価されようがされまいが、関係なく、なすべきところを淡々と行う桜の姿に真理の一端をみる。だから、花は咲いてもいいし、咲かなくてもいいのである。咲こうという過程が大切なのである。大慧宗吳禅師は、「仏の智慧の上に立って見るならば、無駄な努力などない」という。

私達は重荷に耐えながらも希望の花を大切に育てつつ、たえず新たな可能性を切り開こうとし、努力している。言い換えれば、宿命的な定めの中に置かれながらも、希望を持つことなしには、日々を生きていくことはできない。どんなに過酷な境遇の中でもわずかながらとはいえ、心の中に余裕をもち、そこから新しい道を探ろうとする。厳しい環境の中でも活路を見いだすことが可能となってくる。

人それぞれ、色々な境遇をもって新年を迎える。コロナ禍であるからこそ、すべてのものはあるがままにあり、それでよいという平常心のような心持ちで生活することが肝要ではなからうか。(信樹)

柳 緑

新年明けましておめでとうござ

います。一月九日午前十一

時より新年の大殿若祈禱会を

花 紅

行います。コロナ終息の思い

を込めて龍源寺の本尊さまの

お札を作りました。秋彼岸同様、午前十

一時から十一時二十分の間にお参りくだ

さい。サーモグラフィでの検温、手指の

消毒、外階段からのお参りをお願い致し

ます。また、本堂でお参りする方は、距

離をとつての着席、エレベーターは二人

でお願い致します。本堂は換気をするた

め寒いかと思えますが窓を開けます。ど

うかご理解の程、よろしくお願い申し上

げます。▼十一月に年忌法要のお知らせを

配布させていただきました。コロナ禍の

中で御来山が難しい場合は、私が読経さ

せていただきます。▼新しく建設予定の東

北寺内の合同船の計画をすすめています。

貴重なご寄付をいただきました。ありが

とうございました。墓所の移動をお願い

したお檀家様には、計画に御快諾いただ

き心から感謝申し上げます。平成十年よ

り副住職を務めています。二十数年で

今の合同船が収容できなくなることは想

定していませんでした。チラシを作っ

て宣伝などせず、龍源寺にご縁のある方

にご利用いただくものですのでご安心し

ていただきたいと思います。今後ともご

協力お願い申し上げます。▼コロナ禍の中

でも、お寺の例会に参加したい方がい

らっしゃいます。はじめは何故だか分か

らなかつたのですが、きっとお寺の雰囲気

や空気感のようなもの、つまり本堂に

来れば心が落ち着いたり、ホッとする方

が多くいらっしゃるのだらうということ

に気づき、一人一人の衛生に対する意識

を持つことは自明なものとして、お寺側

も備品を揃え体制を整えました。▼古

川橋周辺・龍源寺周辺の再開発が進んで

います。穏やかで無い話ですが、龍源

寺の境内を大切にして地域の文化遺産と

して守っていききたいと思えます。皆さま

のご協力宜しくお願い申し上げます。▼母

は、毎朝早く起きて歩道を掃除したり、

玄関や廊下の雑巾がけをしたりして、お

寺の従業員の人が来る前に、一通りの掃

除を済ませます。妻の亜矢は、仕事と育

児で、毎日忙しくしています。結婚当初

は、「お寺に嫁いで同居で大変ね」という

声がありました。最近では、仕事で三

日留守することもあり、私も娘の幼稚園

の送り迎えはしますが、娘の面倒を母に

お願いすることも多く、「同居でいいです

ね」という声を耳にすることが多くなり

ました。亜矢も同居の環境で感謝してい

ます。娘の瑞樹は年中になりました。縁

があつてお寺に生まれましたので、物を

粗末にせず、ご挨拶など当たり前のこと

が自然にできる子になってもらいたいと思

っています。私自身、最近困ったこと

があり、マスクをしていると初対面の方

の顔が覚えられず、ご挨拶ができずに失

礼をしていることがあるかもしれせん。

▼今、原稿を書いているのは十二月八日。

祖母の「たくあん漬」の記事と重なりま

した。▼一月九日(土)午前十一時より、

出頭寺院を減らして大殿若会を厳修致し

ます。古いお札をお持ちの方は、龍源寺

にお持ち下さい。新年の坐禅会は中止で

す。寺族一同お待ち申し上げます。(信樹)

本年も宜しくお願い申し上げます。(信樹)

ご 寄 付

金十万円 岩野清美殿

新合同船建立 ご寄付

金五万円 渡邊浩延殿

金五万円 関谷セキ子殿

ありがとうございました

※大変貴重なご寄付をありがとうございました。龍源寺の周囲が再開発される中、龍源寺を地域の文化資源の一つとして考え、先代から引き続き、境内整備に力を注いで参りたいと思えます。未熟者ですが、今後とも宜しくお願い申し上げます。

松原信樹

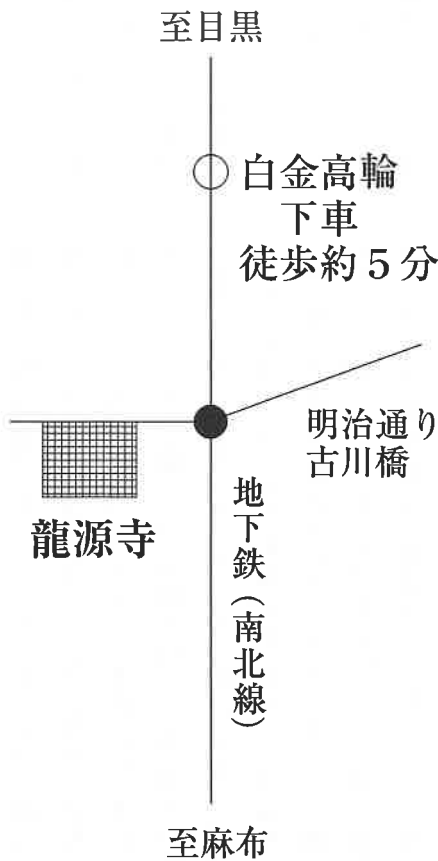
大般若会（新年の祈祷会）

一、一月九日（土曜日）午前十一時

一、法話

・駐車場はありません。

南北線をご利用ください。



【味覚歳時記】

たくあん漬

松原静子



わたくしは、毎年、十二月八日の成道会の日に、八百本以上の大根をたくあん漬けにいたします。大根の種を蒔いて育ててくださった方、そして、わたくしのところまで運んでくださった方々のご恩に感謝しながら、一本、一本、樽に漬けるのです。

一斗樽ならば、二十本の大根は漬けられます。大根は洗ったあと、

切り落とした葉といっ

しよに、日あたりのい

い場所に置いて二週間

ぐらい干します。

小糠・ $\frac{1}{4}$ 斗、塩・六

百^{ムクラ}、しぶ柿の皮を干

したものの・茶碗半分強

刻んだコブ・茶碗半分、とうがら

し(タカノツメ)・茶碗 $\frac{1}{4}$ 、生大豆

$\frac{1}{4}$ 合、なすの葉の陰干し・茶碗半

分強。以上の材料をよくかきまぜ

てください。樽の底に、干した大

根の葉を並べ、その上に一升^{しょうます}柀一

杯(ドンブリに一杯強)の小糠の

まぜものを載せてならします。次

に大根を、すき間ができないよう

に漬け、最後に小糠のまぜものを

かけるように、大根と交互に漬

ていきます。

重しは十^キほどの石で、けっこ

うです。ひと月もたてば、もうい

ただけですが、八十一歳になる主

人も、パリツといい音でいただ

いております。